夕刊 臺灣新民報
昭和十七年七月二十七日
（第二版）（昭治拾壹年五月九日第三種郵便物認可）　昭和十七年七月二十八日（火曜日）　臺灣日日新報　第一万五千二百二十八號　（一）A

國民總力結成大會開く

必勝の國内體制強化

東條首相五施策を強調

【大阪廿六日發】翼賛政治會、大政翼賛會、大日本産業報國會の三團體主催による國民總力結成大會は廿六日午後二時より大阪府公會堂において擧行、西下した東條首相の國民に對する訓示は次の如くである

【東京廿六日發】東條首相は廿六日午後二時より大阪府公會堂において擧行された國民總力結成大會に出席、左の如き訓示を行つた

今日ここに國民總力結成大會が擧行されるに當り、政府は國民諸君に對し、我が國の現下の内外情勢を率直に披瀝し、國民諸君の協力を求めんとするものである

抑々大東亞戰爭の目的は、大東亞の新秩序を建設し、以て世界の平和を確立するにあることは、既に屢々述べたところであるが、この目的を達成するためには、我が國は飽くまでも戰ひ抜かねばならぬ

戰ひ抜くためには、國民總力を擧げて、この戰爭に總進軍することが必要であり、また、國民總力を擧げて、この戰爭に總進軍することこそ、大東亞の新秩序を建設する所以である

感で行く隱密飛行
空から一番乘り
譽れの荒鷲偵察の苦心談

【兩國發同盟】今次南方諸島攻略の作戰に當つて陸海軍協同の下に行はれた落下傘部隊の降下は、實に驚くべき大膽不敵な作戰であつた、この作戰に參加した勇士の一人は語る

搭乘員を讀む　○○部隊がマレー作戰を終つて歸還するに當り、その搭乘員を讀んだ、これによつて見ると、この作戰に參加した勇士の數は實に多數に上つてゐたことが分る

郷土の話に童顏綻ぶ
廣田大使嚴父の病床に土産物

【兩國發同盟】廣田大使嚴父は、長男弘毅氏を始め次男正雄氏、三男武夫氏、四男健吉氏、五男宏氏、六男豐氏、七男三郎氏、八男八郎氏、九男九郎氏、十男十郎氏、十一男十一郎氏、十二男十二郎氏、十三男十三郎氏、十四男十四郎氏、十五男十五郎氏、十六男十六郎氏、十七男十七郎氏、十八男十八郎氏、十九男十九郎氏、二十男二十郎氏、二十一男二十一郎氏、二十二男二十二郎氏、二十三男二十三郎氏、二十四男二十四郎氏、二十五男二十五郎氏、二十六男二十六郎氏、二十七男二十七郎氏、二十八男二十八郎氏、二十九男二十九郎氏、三十男三十郎氏、三十一男三十一郎氏、三十二男三十二郎氏、三十三男三十三郎氏、三十四男三十四郎氏、三十五男三十五郎氏、三十六男三十六郎氏、三十七男三十七郎氏、三十八男三十八郎氏、三十九男三十九郎氏、四十男四十郎氏、四十一男四十一郎氏、四十二男四十二郎氏、四十三男四十三郎氏、四十四男四十四郎氏、四十五男四十五郎氏、四十六男四十六郎氏、四十七男四十七郎氏、四十八男四十八郎氏、四十九男四十九郎氏、五十男五十郎氏、五十一男五十一郎氏、五十二男五十二郎氏、五十三男五十三郎氏、五十四男五十四郎氏、五十五男五十五郎氏、五十六男五十六郎氏、五十七男五十七郎氏、五十八男五十八郎氏、五十九男五十九郎氏、六十男六十郎氏、六十一男六十一郎氏、六十二男六十二郎氏、六十三男六十三郎氏、六十四男六十四郎氏、六十五男六十五郎氏、六十六男六十六郎氏、六十七男六十七郎氏、六十八男六十八郎氏、六十九男六十九郎氏、七十男七十郎氏、七十一男七十一郎氏、七十二男七十二郎氏、七十三男七十三郎氏、七十四男七十四郎氏、七十五男七十五郎氏、七十六男七十六郎氏、七十七男七十七郎氏、七十八男七十八郎氏、七十九男七十九郎氏、八十男八十郎氏、八十一男八十一郎氏、八十二男八十二郎氏、八十三男八十三郎氏、八十四男八十四郎氏、八十五男八十五郎氏、八十六男八十六郎氏、八十七男八十七郎氏、八十八男八十八郎氏、八十九男八十九郎氏、九十男九十郎氏、九十一男九十一郎氏、九十二男九十二郎氏、九十三男九十三郎氏、九十四男九十四郎氏、九十五男九十五郎氏、九十六男九十六郎氏、九十七男九十七郎氏、九十八男九十八郎氏、九十九男九十九郎氏、百男百郎氏、百一男百一郎氏、百二男百二郎氏、百三男百三郎氏、百四男百四郎氏、百五男百五郎氏、百六男百六郎氏、百七男百七郎氏、百八男百八郎氏、百九男百九郎氏、百十男百十郎氏、百十一男百十一郎氏、百十二男百十二郎氏、百十三男百十三郎氏、百十四男百十四郎氏、百十五男百十五郎氏、百十六男百十六郎氏、百十七男百十七郎氏、百十八男百十八郎氏、百十九男百十九郎氏、百二十男百二十郎氏、百二十一男百二十一郎氏、百二十二男百二十二郎氏、百二十三男百二十三郎氏、百二十四男百二十四郎氏、百二十五男百二十五郎氏、百二十六男百二十六郎氏、百二十七男百二十七郎氏、百二十八男百二十八郎氏、百二十九男百二十九郎氏、百三十男百三十郎氏、百三十一男百三十一郎氏、百三十二男百三十二郎氏、百三十三男百三十三郎氏、百三十四男百三十四郎氏、百三十五男百三十五郎氏、百三十六男百三十六郎氏、百三十七男百三十七郎氏、百三十八男百三十八郎氏、百三十九男百三十九郎氏、百四十男百四十郎氏、百四十一男百四十一郎氏、百四十二男百四十二郎氏、百四十三男百四十三郎氏、百四十四男百四十四郎氏、百四十五男百四十五郎氏、百四十六男百四十六郎氏、百四十七男百四十七郎氏、百四十八男百四十八郎氏、百四十九男百四十九郎氏、百五十男百五十郎氏、百五十一男百五十一郎氏、百五十二男百五十二郎氏、百五十三男百五十三郎氏、百五十四男百五十四郎氏、百五十五男百五十五郎氏、百五十六男百五十六郎氏、百五十七男百五十七郎氏、百五十八男百五十八郎氏、百五十九男百五十九郎氏、百六十男百六十郎氏、百六十一男百六十一郎氏、百六十二男百六十二郎氏、百六十三男百六十三郎氏、百六十四男百六十四郎氏、百六十五男百六十五郎氏、百六十六男百六十六郎氏、百六十七男百六十七郎氏、百六十八男百六十八郎氏、百六十九男百六十九郎氏、百七十男百七十郎氏、百七十一男百七十一郎氏、百七十二男百七十二郎氏、百七十三男百七十三郎氏、百七十四男百七十四郎氏、百七十五男百七十五郎氏、百七十六男百七十六郎氏、百七十七男百七十七郎氏、百七十八男百七十八郎氏、百七十九男百七十九郎氏、百八十男百八十郎氏、百八十一男百八十一郎氏、百八十二男百八十二郎氏、百八十三男百八十三郎氏、百八十四男百八十四郎氏、百八十五男百八十五郎氏、百八十六男百八十六郎氏、百八十七男百八十七郎氏、百八十八男百八十八郎氏、百八十九男百八十九郎氏、百九十男百九十郎氏、百九十一男百九十一郎氏、百九十二男百九十二郎氏、百九十三男百九十三郎氏、百九十四男百九十四郎氏、百九十五男百九十五郎氏、百九十六男百九十六郎氏、百九十七男百九十七郎氏、百九十八男百九十八郎氏、百九十九男百九十九郎氏、二百男二百郎氏、二百一男二百一郎氏、二百二男二百二郎氏、二百三男二百三郎氏、二百四男二百四郎氏、二百五男二百五郎氏、二百六男二百六郎氏、二百七男二百七郎氏、二百八男二百八郎氏、二百九男二百九郎氏、二百十男二百十郎氏、二百十一男二百十一郎氏、二百十二男二百十二郎氏、二百十三男二百十三郎氏、二百十四男二百十四郎氏、二百十五男二百十五郎氏、二百十六男二百十六郎氏、二百十七男二百十七郎氏、二百十八男二百十八郎氏、二百十九男二百十九郎氏、二百二十男二百二十郎氏、二百二十一男二百二十一郎氏、二百二十二男二百二十二郎氏、二百二十三男二百二十三郎氏、二百二十四男二百二十四郎氏、二百二十五男二百二十五郎氏、二百二十六男二百二十六郎氏、二百二十七男二百二十七郎氏、二百二十八男二百二十八郎氏、二百二十九男二百二十九郎氏、二百三十男二百三十郎氏、二百三十一男二百三十一郎氏、二百三十二男二百三十二郎氏、二百三十三男二百三十三郎氏、二百三十四男二百三十四郎氏、二百三十五男二百三十五郎氏、二百三十六男二百三十六郎氏、二百三十七男二百三十七郎氏、二百三十八男二百三十八郎氏、二百三十九男二百三十九郎氏、二百四十男二百四十郎氏、二百四十一男二百四十一郎氏、二百四十二男二百四十二郎氏、二百四十三男二百四十三郎氏、二百四十四男二百四十四郎氏、二百四十五男二百四十五郎氏、二百四十六男二百四十六郎氏、二百四十七男二百四十七郎氏、二百四十八男二百四十八郎氏、二百四十九男二百四十九郎氏、二百五十男二百五十郎氏、二百五十一男二百五十一郎氏、二百五十二男二百五十二郎氏、二百五十三男二百五十三郎氏、二百五十四男二百五十四郎氏、二百五十五男二百五十五郎氏、二百五十六男二百五十六郎氏、二百五十七男二百五十七郎氏、二百五十八男二百五十八郎氏、二百五十九男二百五十九郎氏、二百六十男二百六十郎氏、二百六十一男二百六十一郎氏、二百六十二男二百六十二郎氏、二百六十三男二百六十三郎氏、二百六十四男二百六十四郎氏、二百六十五男二百六十五郎氏、二百六十六男二百六十六郎氏、二百六十七男二百六十七郎氏、二百六十八男二百六十八郎氏、二百六十九男二百六十九郎氏、二百七十男二百七十郎氏、二百七十一男二百七十一郎氏、二百七十二男二百七十二郎氏、二百七十三男二百七十三郎氏、二百七十四男二百七十四郎氏、二百七十五男二百七十五郎氏、二百七十六男二百七十六郎氏、二百七十七男二百七十七郎氏、二百七十八男二百七十八郎氏、二百七十九男二百七十九郎氏、二百八十男二百八十郎氏、二百八十一男二百八十一郎氏、二百八十二男二百八十二郎氏、二百八十三男二百八十三郎氏、二百八十四男二百八十四郎氏、二百八十五男二百八十五郎氏、二百八十六男二百八十六郎氏、二百八十七男二百八十七郎氏、二百八十八男二百八十八郎氏、二百八十九男二百八十九郎氏、二百九十男二百九十郎氏、二百九十一男二百九十一郎氏、二百九十二男二百九十二郎氏、二百九十三男二百九十三郎氏、二百九十四男二百九十四郎氏、二百九十五男二百九十五郎氏、二百九十六男二百九十六郎氏、二百九十七男二百九十七郎氏、二百九十八男二百九十八郎氏、二百九十九男二百九十九郎氏、三百男三百郎氏、三百一男三百一郎氏、三百二男三百二郎氏、三百三男三百三郎氏、三百四男三百四郎氏、三百五男三百五郎氏、三百六男三百六郎氏、三百七男三百七郎氏、三百八男三百八郎氏、三百九男三百九郎氏、三百十男三百十郎氏、三百十一男三百十一郎氏、三百十二男三百十二郎氏、三百十三男三百十三郎氏、三百十四男三百十四郎氏、三百十五男三百十五郎氏、三百十六男三百十六郎氏、三百十七男三百十七郎氏、三百十八男三百十八郎氏、三百十九男三百十九郎氏、三百二十男三百二十郎氏、三百二十一男三百二十一郎氏、三百二十二男三百二十二郎氏、三百二十三男三百二十三郎氏、三百二十四男三百二十四郎氏、三百二十五男三百二十五郎氏、三百二十六男三百二十六郎氏、三百二十七男三百二十七郎氏、三百二十八男三百二十八郎氏、三百二十九男三百二十九郎氏、三百三十男三百三十郎氏、三百三十一男三百三十一郎氏、三百三十二男三百三十二郎氏、三百三十三男三百三十三郎氏、三百三十四男三百三十四郎氏、三百三十五男三百三十五郎氏、三百三十六男三百三十六郎氏、三百三十七男三百三十七郎氏、三百三十八男三百三十八郎氏、三百三十九男三百三十九郎氏、三百四十男三百四十郎氏、三百四十一男三百四十一郎氏、三百四十二男三百四十二郎氏、三百四十三男三百四十三郎氏、三百四十四男三百四十四郎氏、三百四十五男三百四十五郎氏、三百四十六男三百四十六郎氏、三百四十七男三百四十七郎氏、三百四十八男三百四十八郎氏、三百四十九男三百四十九郎氏、三百五十男三百五十郎氏、三百五十一男三百五十一郎氏、三百五十二男三百五十二郎氏、三百五十三男三百五十三郎氏、三百五十四男三百五十四郎氏、三百五十五男三百五十五郎氏、三百五十六男三百五十六郎氏、三百五十七男三百五十七郎氏、三百五十八男三百五十八郎氏、三百五十九男三百五十九郎氏、三百六十男三百六十郎氏、三百六十一男三百六十一郎氏、三百六十二男三百六十二郎氏、三百六十三男三百六十三郎氏、三百六十四男三百六十四郎氏、三百六十五男三百六十五郎氏、三百六十六男三百六十六郎氏、三百六十七男三百六十七郎氏、三百六十八男三百六十八郎氏、三百六十九男三百六十九郎氏、三百七十男三百七十郎氏、三百七十一男三百七十一郎氏、三百七十二男三百七十二郎氏、三百七十三男三百七十三郎氏、三百七十四男三百七十四郎氏、三百七十五男三百七十五郎氏、三百七十六男三百七十六郎氏、三百七十七男三百七十七郎氏、三百七十八男三百七十八郎氏、三百七十九男三百七十九郎氏、三百八十男三百八十郎氏、三百八十一男三百八十一郎氏、三百八十二男三百八十二郎氏、三百八十三男三百八十三郎氏、三百八十四男三百八十四郎氏、三百八十五男三百八十五郎氏、三百八十六男三百八十六郎氏、三百八十七男三百八十七郎氏、三百八十八男三百八十八郎氏、三百八十九男三百八十九郎氏、三百九十男三百九十郎氏、三百九十一男三百九十一郎氏、三百九十二男三百九十二郎氏、三百九十三男三百九十三郎氏、三百九十四男三百九十四郎氏、三百九十五男三百九十五郎氏、三百九十六男三百九十六郎氏、三百九十七男三百九十七郎氏、三百九十八男三百九十八郎氏、三百九十九男三百九十九郎氏、四百男四百郎氏、四百一男四百一郎氏、四百二男四百二郎氏、四百三男四百三郎氏、四百四男四百四郎氏、四百五男四百五郎氏、四百六男四百六郎氏、四百七男四百七郎氏、四百八男四百八郎氏、四百九男四百九郎氏、四百十男四百十郎氏、四百十一男四百十一郎氏、四百十二男四百十二郎氏、四百十三男四百十三郎氏、四百十四男四百十四郎氏、四百十五男四百十五郎氏、四百十六男四百十六郎氏、四百十七男四百十七郎氏、四百十八男四百十八郎氏、四百十九男四百十九郎氏、四百二十男四百二十郎氏、四百二十一男四百二十一郎氏、四百二十二男四百二十二郎氏、四百二十三男四百二十三郎氏、四百二十四男四百二十四郎氏、四百二十五男四百二十五郎氏、四百二十六男四百二十六郎氏、四百二十七男四百二十七郎氏、四百二十八男四百二十八郎氏、四百二十九男四百二十九郎氏、四百三十男四百三十郎氏、四百三十一男四百三十一郎氏、四百三十二男四百三十二郎氏、四百三十三男四百三十三郎氏、四百三十四男四百三十四郎氏、四百三十五男四百三十五郎氏、四百三十六男四百三十六郎氏、四百三十七男四百三十七郎氏、四百三十八男四百三十八郎氏、四百三十九男四百三十九郎氏、四百四十男四百四十郎氏、四百四十一男四百四十一郎氏、四百四十二男四百四十二郎氏、四百四十三男四百四十三郎氏、四百四十四男四百四十四郎氏、四百四十五男四百四十五郎氏、四百四十六男四百四十六郎氏、四百四十七男四百四十七郎氏、四百四十八男四百四十八郎氏、四百四十九男四百四十九郎氏、四百五十男四百五十郎氏、四百五十一男四百五十一郎氏、四百五十二男四百五十二郎氏、四百五十三男四百五十三郎氏、四百五十四男四百五十四郎氏、四百五十五男四百五十五郎氏、四百五十六男四百五十六郎氏、四百五十七男四百五十七郎氏、四百五十八男四百五十八郎氏、四百五十九男四百五十九郎氏、四百六十男四百六十郎氏、四百六十一男四百六十一郎氏、四百六十二男四百六十二郎氏、四百六十三男四百六十三郎氏、四百六十四男四百六十四郎氏、四百六十五男四百六十五郎氏、四百六十六男四百六十六郎氏、四百六十七男四百六十七郎氏、四百六十八男四百六十八郎氏、四百六十九男四百六十九郎氏、四百七十男四百七十郎氏、四百七十一男四百七十一郎氏、四百七十二男四百七十二郎氏、四百七十三男四百七十三郎氏、四百七十四男四百七十四郎氏、四百七十五男四百七十五郎氏、四百七十六男四百七十六郎氏、四百七十七男四百七十七郎氏、四百七十八男四百七十八郎氏、四百七十九男四百七十九郎氏、四百八十男四百八十郎氏、四百八十一男四百八十一郎氏、四百八十二男四百八十二郎氏、四百八十三男四百八十三郎氏、四百八十四男四百八十四郎氏、四百八十五男四百八十五郎氏、四百八十六男四百八十六郎氏、四百八十七男四百八十七郎氏、四百八十八男四百八十八郎氏、四百八十九男四百八十九郎氏、四百九十男四百九十郎氏、四百九十一男四百九十一郎氏、四百九十二男四百九十二郎氏、四百九十三男四百九十三郎氏、四百九十四男四百九十四郎氏、四百九十五男四百九十五郎氏、四百九十六男四百九十六郎氏、四百九十七男四百九十七郎氏、四百九十八男四百九十八郎氏、四百九十九男四百九十九郎氏、五百男五百郎氏、五百一男五百一郎氏、五百二男五百二郎氏、五百三男五百三郎氏、五百四男五百四郎氏、五百五男五百五郎氏、五百六男五百六郎氏、五百七男五百七郎氏、五百八男五百八郎氏、五百九男五百九郎氏、五百十男五百十郎氏、五百十一男五百十一郎氏、五百十二男五百十二郎氏、五百十三男五百十三郎氏、五百十四男五百十四郎氏、五百十五男五百十五郎氏、五百十六男五百十六郎氏、五百十七男五百十七郎氏、五百十八男五百十八郎氏、五百十九男五百十九郎氏、五百二十男五百二十郎氏、五百二十一男五百二十一郎氏、五百二十二男五百二十二郎氏、五百二十三男五百二十三郎氏、五百二十四男五百二十四郎氏、五百二十五男五百二十五郎氏、五百二十六男五百二十六郎氏、五百二十七男五百二十七郎氏、五百二十八男五百二十八郎氏、五百二十九男五百二十九郎氏、五百三十男五百三十郎氏、五百三十一男五百三十一郎氏、五百三十二男五百三十二郎氏、五百三十三男五百三十三郎氏、五百三十四男五百三十四郎氏、五百三十五男五百三十五郎氏、五百三十六男五百三十六郎氏、五百三十七男五百三十七郎氏、五百三十八男五百三十八郎氏、五百三十九男五百三十九郎氏、五百四十男五百四十郎氏、五百四十一男五百四十一郎氏、五百四十二男五百四十二郎氏、五百四十三男五百四十三郎氏、五百四十四男五百四十四郎氏、五百四十五男五百四十五郎氏、五百四十六男五百四十六郎氏、五百四十七男五百四十七郎氏、五百四十八男五百四十八郎氏、五百四十九男五百四十九郎氏、五百五十男五百五十郎氏、五百五十一男五百五十一郎氏、五百五十二男五百五十二郎氏、五百五十三男五百五十三郎氏、五百五十四男五百五十四郎氏、五百五十五男五百五十五郎氏、五百五十六男五百五十六郎氏、五百五十七男五百五十七郎氏、五百五十八男五百五十八郎氏、五百五十九男五百五十九郎氏、五百六十男五百六十郎氏、五百六十一男五百六十一郎氏、五百六十二男五百六十二郎氏、五百六十三男五百六十三郎氏、五百六十四男五百六十四郎氏、五百六十五男五百六十五郎氏、五百六十六男五百六十六郎氏、五百六十七男五百六十七郎氏、五百六十八男五百六十八郎氏、五百六十九男五百六十九郎氏、五百七十男五百七十郎氏、五百七十一男五百七十一郎氏、五百七十二男五百七十二郎氏、五百七十三男五百七十三郎氏、五百七十四男五百七十四郎氏、五百七十五男五百七十五郎氏、五百七十六男五百七十六郎氏、五百七十七男五百七十七郎氏、五百七十八男五百七十八郎氏、五百七十九男五百七十九郎氏、五百八十男五百八十郎氏、五百八十一男五百八十一郎氏、五百八十二男五百八十二郎氏、五百八十三男五百八十三郎氏、五百八十四男五百八十四郎氏、五百八十五男五百八十五郎氏、五百八十六男五百八十六郎氏、五百八十七男五百八十七郎氏、五百八十八男五百八十八郎氏、五百八十九男五百八十九郎氏、五百九十男五百九十郎氏、五百九十一男五百九十一郎氏、五百九十二男五百九十二郎氏、五百九十三男五百九十三郎氏、五百九十四男五百九十四郎氏、五百九十五男五百九十五郎氏、五百九十六男五百九十六郎氏、五百九十七男五百九十七郎氏、五百九十八男五百九十八郎氏、五百九十九男五百九十九郎氏、六百男六百郎氏、六百一男六百一郎氏、六百二男六百二郎氏、六百三男六百三郎氏、六百四男六百四郎氏、六百五男六百五郎氏、六百六男六百六郎氏、六百七男六百七郎氏、六百八男六百八郎氏、六百九男六百九郎氏、六百十男六百十郎氏、六百十一男六百十一郎氏、六百十二男六百十二郎氏、六百十三男六百十三郎氏、六百十四男六百十四郎氏、六百十五男六百十五郎氏、六百十六男六百十六郎氏、六百十七男六百十七郎氏、六百十八男六百十八郎氏、六百十九男六百十九郎氏、六百二十男六百二十郎氏、六百二十一男六百二十一郎氏、六百二十二男六百二十二郎氏、六百二十三男六百二十三郎氏、六百二十四男六百二十四郎氏、六百二十五男六百二十五郎氏、六百二十六男六百二十六郎氏、六百二十七男六百二十七郎氏、六百二十八男六百二十八郎氏、六百二十九男六百二十九郎氏、六百三十男六百三十郎氏、六百三十一男六百三十一郎氏、六百三十二男六百三十二郎氏、六百三十三男六百三十三郎氏、六百三十四男六百三十四郎氏、六百三十五男六百三十五郎氏、六百三十六男六百三十六郎氏、六百三十七男六百三十七郎氏、六百三十八男六百三十八郎氏、六百三十九男六百三十九郎氏、六百四十男六百四十郎氏、六百四十一男六百四十一郎氏、六百四十二男六百四十二郎氏、六百四十三男六百四十三郎氏、六百四十四男六百四十四郎氏、六百四十五男六百四十五郎氏、六百四十六男六百四十六郎氏、六百四十七男六百四十七郎氏、六百四十八男六百四十八郎氏、六百四十九男六百四十九郎氏、六百五十男六百五十郎氏、六百五十一男六百五十一郎氏、六百五十二男六百五十二郎氏、六百五十三男六百五十三郎氏、六百五十四男六百五十四郎氏、六百五十五男六百五十五郎氏、六百五十六男六百五十六郎氏、六百五十七男六百五十七郎氏、六百五十八男六百五十八郎氏、六百五十九男六百五十九郎氏、六百六十男六百六十郎氏、六百六十一男六百六十一郎氏、六百六十二男六百六十二郎氏、六百六十三男六百六十三郎氏、六百六十四男六百六十四郎氏、六百六十五男六百六十五郎氏、六百六十六男六百六十六郎氏、六百六十七男六百六十七郎氏、六百六十八男六百六十八郎氏、六百六十九男六百六十九郎氏、六百七十男六百七十郎氏、六百七十一男六百七十一郎氏、六百七十二男六百七十二郎氏、六百七十三男六百七十三郎氏、六百七十四男六百七十四郎氏、六百七十五男六百七十五郎氏、六百七十六男六百七十六郎氏、六百七十七男六百七十七郎氏、六百七十八男六百七十八郎氏、六百七十九男六百七十九郎氏、六百八十男六百八十郎氏、六百八十一男六百八十一郎氏、六百八十二男六百八十二郎氏、六百八十三男六百八十三郎氏、六百八十四男六百八十四郎氏、六百八十五男六百八十五郎氏、六百八十六男六百八十六郎氏、六百八十七男六百八十七郎氏、六百八十八男六百八十八郎氏、六百八十九男六百八十九郎氏、六百九十男六百九十郎氏、六百九十一男六百九十一郎氏、六百九十二男六百九十二郎氏、六百九十三男六百九十三郎氏、六百九十四男六百九十四郎氏、六百九十五男六百九十五郎氏、六百九十六男六百九十六郎氏、六百九十七男六百九十七郎氏、六百九十八男六百九十八郎氏、六百九十九男六百九十九郎氏、七百男七百郎氏、七百一男七百一郎氏、七百二男七百二郎氏、七百三男七百三郎氏、七百四男七百四郎氏、七百五男七百五郎氏、七百六男七百六郎氏、七百七男七百七郎氏、七百八男七百八郎氏、七百九男七百九郎氏、七百十男七百十郎氏、七百十一男七百十一郎氏、七百十二男七百十二郎氏、七百十三男七百十三郎氏、七百十四男七百十四郎氏、七百十五男七百十五郎氏、七百十六男七百十六郎氏、七百十七男七百十七郎氏、七百十八男七百十八郎氏、七百十九男七百十九郎氏、七百二十男七百二十郎氏、七百二十一男七百二十一郎氏、七百二十二男七百二十二郎氏、七百二十三男七百二十三郎氏、七百二十四男七百二十四郎氏、七百二十五男七百二十五郎氏、七百二十六男七百二十六郎氏、七百二十七男七百二十七郎氏、七百二十八男七百二十八郎氏、七百二十九男七百二十九郎氏、七百三十男七百三十郎氏、七百三十一男七百三十一郎氏、七百三十二男七百三十二郎氏、七百三十三男七百三十三郎氏、七百三十四男七百三十四郎氏、七百三十五男七百三十五郎氏、七百三十六男七百三十六郎氏、七百三十七男七百三十七郎氏、七百三十八男七百三十八郎氏、七百三十九男七百三十九郎氏、七百四十男七百四十郎氏、七百四十一男七百四十一郎氏、七百四十二男七百四十二郎氏、七百四十三男七百四十三郎氏、七百四十四男七百四十四郎氏、七百四十五男七百四十五郎氏、七百四十六男七百四十六郎氏、七百四十七男七百四十七郎氏、七百四十八男七百四十八郎氏、七百四十九男七百四十九郎氏、七百五十男七百五十郎氏、七百五十一男七百五十一郎氏、七百五十二男七百五十二郎氏、七百五十三男七百五十三郎氏、七百五十四男七百五十四郎氏、七百五十五男七百五十五郎氏、七百五十六男七百五十六郎氏、七百五十七男七百五十七郎氏、七百五十八男七百五十八郎氏、七百五十九男七百五十九郎氏、七百六十男七百六十郎氏、七百六十一男七百六十一郎氏、七百六十二男七百六十二郎氏、七百六十三男七百六十三郎氏、七百六十四男七百六十四郎氏、七百六十五男七百六十五郎氏、七百六十六男七百六十六郎氏、七百六十七男七百六十七郎氏、七百六十八男七百六十八郎氏、七百六十九男七百六十九郎氏、七百七十男七百七十郎氏、七百七十一男七百七十一郎氏、七百七十二男七百七十二郎氏、七百七十三男七百七十三郎氏、七百七十四男七百七十四郎氏、七百七十五男七百七十五郎氏、七百七十六男七百七十六郎氏、七百七十七男七百七十七郎氏、七百七十八男七百七十八郎氏、七百七十九男七百七十九郎氏、七百八十男七百八十郎氏、七百八十一男七百八十一郎氏、七百八十二男七百八十二郎氏、七百八十三男七百八十三郎氏、七百八十四男七百八十四郎氏、七百八十五男七百八十五郎氏、七百八十六男七百八十六郎氏、七百八十七男七百八十七郎氏、七百八十八男七百八十八郎氏、七百八十九男七百八十九郎氏、七百九十男七百九十郎氏、七百九十一男七百九十一郎氏、七百九十二男七百九十二郎氏、七百九十三男七百九十三郎氏、七百九十四男七百九十四郎氏、七百九十五男七百九十五郎氏、七百九十六男七百九十六郎氏、七百九十七男七百九十七郎氏、七百九十八男七百九十八郎氏、七百九十九男七百九十九郎氏、八百男八百郎氏、八百一男八百一郎氏、八百二男八百二郎氏、八百三男八百三郎氏、八百四男八百四郎氏、八百五男八百五郎氏、八百六男八百六郎氏、八百七男八百七郎氏、八百八男八百八郎氏、八百九男八百九郎氏、八百十男八百十郎氏、八百十一男八百十一郎氏、八百十二男八百十二郎氏、八百十三男八百十三郎氏、八百十四男八百十四郎氏、八百十五男八百十五郎氏、八百十六男八百十六郎氏、八百十七男八百十七郎氏、八百十八男八百十八郎氏、八百十九男八百十九郎氏、八百二十男八百二十郎氏、八百二十一男八百二十一郎氏、八百二十二男八百二十二郎氏、八百二十三男八百二十三郎氏、八百二十四男八百二十四郎氏、八百二十五男八百二十五郎氏、八百二十六男八百二十六郎氏、八百二十七男八百二十七郎氏、八百二十八男八百二十八郎氏、八百二十九男八百二十九郎氏、八百三十男八百三十郎氏、八百三十一男八百三十一郎氏、八百三十二男八百三十二郎氏、八百三十三男八百三十三郎氏、八百三十四男八百三十四郎氏、八百三十五男八百三十五郎氏、八百三十六男八百三十六郎氏、八百三十七男八百三十七郎氏、八百三十八男八百三十八郎氏、八百三十九男八百三十九郎氏、八百四十男八百四十郎氏、八百四十一男八百四十一郎氏、八百四十二男八百四十二郎氏、八百四十三男八百四十三郎氏、八百四十四男八百四十四郎氏、八百四十五男八百四十五郎氏、八百四十六男八百四十六郎氏、八百四十七男八百四十七郎氏、八百四十八男八百四十八郎氏、八百四十九男八百四十九郎氏、八百五十男八百五十郎氏、八百五十一男八百五十一郎氏、八百五十二男八百五十二郎氏、八百五十三男八百五十三郎氏、八百五十四男八百五十四郎氏、八百五十五男八百五十五郎氏、八百五十六男八百五十六郎氏、八百五十七男八百五十七郎氏、八百五十八男八百五十八郎氏、八百五十九男八百五十九郎氏、八百六十男八百六十郎氏、八百六十一男八百六十一郎氏、八百六十二男八百六十二郎氏、八百六十三男八百六十三郎氏、八百六十四男八百六十四郎氏、八百六十五男八百六十五郎氏、八百六十六男八百六十六郎氏、八百六十七男八百六十七郎氏、八百六十八男八百六十八郎氏、八百六十九男八百六十九郎氏、八百七十男八百七十郎氏、八百七十一男八百七十一郎氏、八百七十二男八百七十二郎氏、八百七十三男八百七十三郎氏、八百七十四男八百七十四郎氏、八百七十五男八百七十五郎氏、八百七十六男八百七十六郎氏、八百七十七男八百七十七郎氏、八百七十八男八百七十八郎氏、八百七十九男八百七十九郎氏、八百八十男八百八十郎氏、八百八十一男八百八十一郎氏、八百八十二男八百八十二郎氏、八百八十三男八百八十三郎氏、八百八十四男八百八十四郎氏、八百八十五男八百八十五郎氏、八百八十六男八百八十六郎氏、八百八十七男八百八十七郎氏、八百八十八男八百八十八郎氏、八百八十九男八百八十九郎氏、八百九十男八百九十郎氏、八百九十一男八百九十一郎氏、八百九十二男八百九十二郎氏、八百九十三男八百九十三郎氏、八百九十四男八百九十四郎氏、八百九十五男八百九十五郎氏、八百九十六男八百九十六郎氏、八百九十七男八百九十七郎氏、八百九十八男八百九十八郎氏、八百九十九男八百九十九郎氏、九百男九百郎氏、九百一男九百一郎氏、九百二男九百二郎氏、九百三男九百三郎氏、九百四男九百四郎氏、九百五男九百五郎氏、九百六男九百六郎氏、九百七男九百七郎氏、九百八男九百八郎氏、九百九男九百九郎氏、九百十男九百十郎氏、九百十一男九百十一郎氏、九百十二男九百十二郎氏、九百十三男九百十三郎氏、九百十四男九百十四郎氏、九百十五男九百十五郎氏、九百十六男九百十六郎氏、九百十七男九百十七郎氏、九百十八男九百十八郎氏、九百十九男九百十九郎氏、九百二十男九百二十郎氏、九百二十一男九百二十一郎氏、九百二十二男九百二十二郎氏、九百二十三男九百二十三郎氏、九百二十四男九百二十四郎氏、九百二十五男九百二十五郎氏、九百二十六男九百二十六郎氏、九百二十七男九百二十七郎氏、九百二十八男九百二十八郎氏、九百二十九男九百二十九郎氏、九百三十男九百三十郎氏、九百三十一男九百三十一郎氏、九百三十二男九百三十二郎氏、九百三十三男九百三十三郎氏、九百三十四男九百三十四郎氏、九百三十五男九百三十五郎氏、九百三十六男九百三十六郎氏、九百三十七男九百三十七郎氏、九百三十八男九百三十八郎氏、九百三十九男九百三十九郎氏、九百四十男九百四十郎氏、九百四十一男九百四十一郎氏、九百四十二男九百四十二郎氏、九百四十三男九百四十三郎氏、九百四十四男九百四十四郎氏、九百四十五男九百四十五郎氏、九百四十六男九百四十六郎氏、九百四十七男九百四十七郎氏、九百四十八男九百四十八郎氏、九百四十九男九百四十九郎氏、九百五十男九百五十郎氏、九百五十一男九百五十一郎氏、九百五十二男九百五十二郎氏、九百五十三男九百五十三郎氏、九百五十四男九百五十四郎氏、九百五十五男九百五十五郎氏、九百五十六男九百五十六郎氏、九百五十七男九百五十七郎氏、九百五十八男九百五十八郎氏、九百五十九男九百五十九郎氏、九百六十男九百六十郎氏、九百六十一男九百六十一郎氏、九百六十二男九百六十二郎氏、九百六十三男九百六十三郎氏、九百六十四男九百六十四郎氏、九百六十五男九百六十五郎氏、九百六十六男九百六十六郎氏、九百六十七男九百六十七郎氏、九百六十八男九百六十八郎氏、九百六十九男九百六十九郎氏、九百七十男九百七十郎氏、九百七十一男九百七十一郎氏、九百七十二男九百七十二郎氏、九百七十三男九百七十三郎氏、九百七十四男九百七十四郎氏、九百七十五男九百七十五郎氏、九百七十六男九百七十六郎氏、九百七十七男九百七十七郎氏、九百七十八男九百七十八郎氏、九百七十九男九百七十九郎氏、九百八十男九百八十郎氏、九百八十一男九百八十一郎氏、九百八十二男九百八十二郎氏、九百八十三男九百八十三郎氏、九百八十四男九百八十四郎氏、九百八十五男九百八十五郎氏、九百八十六男九百八十六郎氏、九百八十七男九百八十七郎氏、九百八十八男九百八十八郎氏、九百八十九男九百八十九郎氏、九百九十男九百九十郎氏、九百九十一男九百九十一郎氏、九百九十二男九百九十二郎氏、九百九十三男九百九十三郎氏、九百九十四男九百九十四郎氏、九百九十五男九百九十五郎氏、九百九十六男九百九十六郎氏、九百九十七男九百九十七郎氏、九百九十八男九百九十八郎氏、九百九十九男九百九十九郎氏、一千男一千郎氏、一千一男一千一郎氏、一千二男一千二郎氏、一千三男一千三郎氏、一千四男一千四郎氏、一千五男一千五郎氏、一千六男一千六郎氏、一千七男一千七郎氏、一千八男一千八郎氏、一千九男一千九郎氏、一千十男一千十郎氏、一千十一男一千十一郎氏、一千十二男一千十二郎氏、一千十三男一千十三郎氏、一千十四男一千十四郎氏、一千十五男一千十五郎氏、一千十六男一千十六郎氏、一千十七男一千十七郎氏、一千十八男一千十八郎氏、一千十九男一千十九郎氏、一千二十男一千二十郎氏、一千二十一男一千二十一郎氏、一千二十二男一千二十二郎氏、一千二十三男一千二十三郎氏、一千二十四男一千二十四郎氏、一千二十五男一千二十五郎氏、一千二十六男一千二十六郎氏、一千二十七男一千二十七郎氏、一千二十八男一千二十八郎氏、一千二十九男一千二十九郎氏、一千三十男一千三十郎氏、一千三十一男一千三十一郎氏、一千三十二男一千三十二郎氏、一千三十三男一千三十三郎氏、一千三十四男一千三十四郎氏、一千三十五男一千三十五郎氏、一千三十六男一千三十六郎氏、一千三十七男一千三十七郎氏、一千三十八男一千三十八郎氏、一千三十九男一千三十九郎氏、一千四十男一千四十郎氏、一千四十一男一千四十一郎氏、一千四十二男一千四十二郎氏、一千四十三男一千四十三郎氏、一千四十四男一千四十四郎氏、一千四十五男一千四十五郎氏、一千四十六男一千四十六郎氏、一千四十七男一千四十七郎氏、一千四十八男一千四十八郎氏、一千四十九男一千四十九郎氏、一千五十男一千五十郎氏、一千五十一男一千五十一郎氏、一千五十二男一千五十二郎氏、一千五十三男一千五十三郎氏、一千五十四男一千五十四郎氏、一千五十五男一千五十五郎氏、一千五十六男一千五十六郎氏、一千五十七男一千五十七郎氏、一千五十八男一千五十八郎氏、一千五十九男一千五十九郎氏、一千六十男一千六十郎氏、一千六十一男一千六十一郎氏、一千六十二男一千六十二郎氏、一千六十三男一千六十三郎氏、一千六十四男一千六十四郎氏、一千六十五男一千六十五郎氏、一千六十六男一千六十六郎氏、一千六十七男一千六十七郎氏、一千六十八男一千六十八郎氏、一千六十九男一千六十九郎氏、一

（第二版）（附録共一千五百九月九日第三種郵便物認可）　昭和十七年七月二十八日（火曜日）　臺灣日日新報　第一万五千二百二十八號　㊃　【一】

臺灣新民報

日本夕刊共六頁

米本土西岸、濠洲等に
大型船舶八隻を擊沈
帝國潛水艦更に新戰果

【東京發同盟】大本營發表（二十七日午後三時三十分）七月十八日敵船舶擊沈破綜合戰果發表後更に帝國潛水艦の擊沈せる新戰果左の如く判明せり

一、米本土西岸、シャトル方面
六月八日　六千噸級一隻
六月二十日　七千噸級一隻

二、濠洲東岸、シドニー方面
六月一日より六月十六日に至る
二萬噸級一隻　一萬噸級二隻　七千噸級一隻　五千噸級一隻

三、アリューシャン列島ダッチハーバー方面
七月十六日　六千噸級一隻

開戰以來

二百萬六千噸擊沈

敵の反擊態勢破碎

【東京發同盟】帝國潛水艦隊は開戰以來今日迄に發表されたもの丈でも實に二百萬六千噸の大船腹を擊沈破壞せるが更に帝國海軍當局の發表に依れば八月十日現在に於ける撃沈破壞の總數は實に二百五十萬噸を突破するものと見られ敵の反擊態勢は全く破碎されたるものと觀測されてゐる

【東京發同盟】帝國潛水艦隊は開戰以來今日迄に發表されたもの丈でも實に二百萬六千噸の大船腹を擊沈破壞せるが更に帝國海軍當局の發表に依れば八月十日現在に於ける撃沈破壞の總數は實に二百五十萬噸を突破するものと見られ敵の反擊態勢は全く破碎されたるものと觀測されてゐる

四千萬方粁の廣大なる太平洋においてかくの如き驚異的戰果を收めたることは帝國潛水艦隊の勇戰奮鬪と讃ふべきはもちろん、由來潛水艦隊は敵の防禦網を突破するといふよりもではないが敵の防禦網の隙間を縫ひ或は敵の防禦網を逆に利用して敵の懷ろ深く潛入し敵の心臟部を衝くといふのが常套手段であるが、米國西部海岸への攻撃は殆ど總てこの型に依つて實施されたものと見られ「米國の生命線を斷つ最大の要點」と稱へる西部海岸をかくも容易に突破されたことは米國をして驚天動地の感を抱かしめたことは勿論である、次で敵が如何に米國の威信にかけて之が防衛に努めるであらうかは容易に想像し得るところであるが、かくの如き米國の心臟部深く潛入し敵の船腹を擊沈破壞することは敵の戰意を喪失せしめ敵の戰爭遂行能力を麻痺せしめる上に於て如何に大なる效果があるかは八百萬噸級の船腹を擊沈破壞せんとする如き驚異的數字と對比されてゐるのである、かくの如き米國の心臟部に對する潛水艦の攻撃は實に米國の戰意を喪失せしめ戰爭遂行能力を麻痺せしめる上に於て如何に大なる效果があるかは八百萬噸級の船腹を擊沈破壞せんとする如き驚異的數字と對比されてゐるのである、かくの如き米國の心臟部に對する潛水艦の攻撃は實に米國の戰意を喪失

社說

"親切運動"その後の展開
我等の義務と責任所を確保せよ

一

戰時下においては、勞力人の心にも引ひといふものが出來勝ちになり、或は粗雜となり、或は勞力の節約といふ名の下に、實は怠慢の結果を生ずるやうなことがあるやうである。既つたことであるが、たとへ勞力の節約といふ名の下にも、或は勞力の節約といふ名の下にも、或は勞力の節約といふ名の下にも、或は

豪洲近海に千變萬化
鋼鐵の鮫、縱橫の活躍
雷撃、砲撃に手練の一撃

【米太平洋國軍□□發表】□□海域にて發生した日米海軍間の海戰は、二十七日……我が艦隊の損害は……日本海軍の發表は……

◇

敵船八分で沈沒

……ちの日、全艦艇は……敵の……と認定である、……を除く……

◇

燃ゆる海火事だ

……

◇

比島の畜産界

技術徹生共に幼稚
改善と覺醒が必要

元比島派遣軍○○獸醫部長報告記

……

◇

ドンボワン踊り

……

◇

全島中等野球準決勝

北工嘉農を破る

熱戰十六回

……

◇

拓南農業戰士訓練所打合會

……

◇

日本に劣らぬ優秀さ

三島子爵 泰國少年團を語る

……

◇

"桔梗魂"へ乙女ら錬成

各地會員の參集を機に錬成會開催

……

◇

胃腸が活氣づく

夏の疫囘に整腸に消化に

……

◇

婦人錬成會

第七回會員募集

……

◇

海の記念日座談會（九）

海に生き海に死ぬは
皇國不動の鐵則

海洋へ國民をどし〳〵送れ

……

◇

生絲・撚糸・眞綿

……

◇

第三十五期決算公告

……

◇

臺灣製紙株式會社

……

◇

臺灣窯業株式會社

……

◇

南洋協會臺灣支部

……

◇

臺灣拓殖株式會社

……

◇

臺灣塗料商業組合

……

◇

臺灣木材組合

……

◇

古河電氣工業株式會社內

……

◇

臺灣茶輸移出統制株式會社

……

◇

ビルマの現狀

……

◇

南方圈の經濟的價値

發行所 南洋協會臺灣支部

……

◇

公告

……

◇

夜間勤務臨時事務員募集

……

◇

今日の映畫

……

◇

父玄葉儀內地歸

……

◇

募集人員

……

◇

養成所

……

◇

貴來詣

……

◇

議選

……

◇

御禮

……

昭和十七年七月二十八日（火曜日）　臺灣日日新報　第一万五千二百二十八號　（第三種郵便物認可）

田植應援挺身隊員
災害地農民に感謝さる
蘭陽地方の增産確保へ

【宜蘭電話】昭和十年の風水害による災害地の農民が勞力不足のため田植が出來ず困つてゐるとの報に接した宜蘭市の青年團員は「お百姓さんに食糧を與へるのは我々の使命である」として昨日一齊の勇ましい出動となり、宜蘭郡下の蘭陽地方へ應援に赴いた。この應援隊は宜蘭市青年團員を中心として組織されたもので、總勢百名、午前七時宜蘭驛前に集合、八時半頃から二班に分れ、一班は宜蘭郡下の頭圍、羅東地方に、他の一班は宜蘭市の隣接地である礁溪地方に應援に赴いたが、何れも災害地の農民から感謝の言葉を以て迎へられ、午後一時頃から一齊に田植に取掛つた。

【宜蘭電話】昭和十年の風水害による災害地の農民が勞力不足のため田植が出來ず困つてゐるとの報に接した宜蘭市の青年團員は「お百姓さんに食糧を與へるのは我々の使命である」として昨日一齊の勇ましい出動となり、宜蘭郡下の蘭陽地方へ應援に赴いたが、この應援隊は宜蘭市青年團員を中心として組織されたもので、總勢百名、午前七時宜蘭驛前に集合、八時半頃から二班に分れ、一班は宜蘭郡下の頭圍、羅東地方に、他の一班は宜蘭市の隣接地である礁溪地方に應援に赴いたが、何れも災害地の農民から感謝の言葉を以て迎へられ、午後一時頃から一齊に田植に取掛つた。

颱風後の復興狀況
明知宜蘭市長談を發表

【宜蘭電話】颱風襲來後の宜蘭市の復興狀況に關する宜蘭市の被害狀況に關する宜蘭市長談次の如き談話を發表した

先般の颱風は宜蘭市としては第一年來經驗した事のない大暴風雨であつて市内の被害狀況は實に戰慄すべきものがあります。本市は今回の颱風の襲來に對し豫め充分の警戒をなし、一旦危險狀態に陷るや直ちに救護隊を組織して應急の救護に當らしめ、又罹災者に對しては炊出しを行ひ、又罹災者の收容所を設置して之等罹災者の救護に萬全を期したのであります。

【宜蘭電話】颱風襲來後の宜蘭市の復興狀況に關する宜蘭市長談次の如き談話を發表した

先般の颱風は宜蘭市としては第一年來經驗した事のない大暴風雨であつて市内の被害狀況に關する宜蘭市の被害